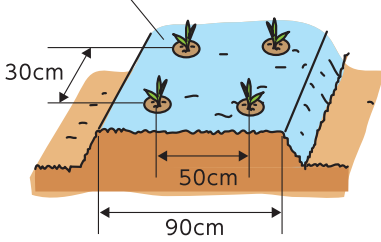
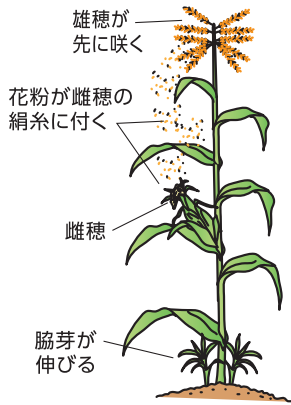


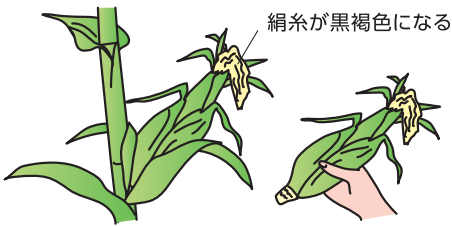
(図1) 黒色ポリフィルム



(図2) トウモロコシが育つ姿



(図3)



手でつかんで
元からもぎ取る

参考にしてください。

つかむ中に
手応えがある

してしまいます。

交雑率は花粉親株と種子親株の距離が離れるほど低くなり、距離0.3mの平均交雑率は23%、10〜50mでは0.1〜0.3%と極めて低くなるという調査データがあります。

近くに異品種があると、その花粉によって雌穂の粒に花粉親の形質が現れます。これをキセニアといいます。例えばあまり甘くないスイートコーンの近くで栽培すると、味や品質が著しく低下してしまいます。

高温(適温は22〜30℃)を好むので、十分暖かくなってから種まき

イネ科の作物なので、野菜畑の連作障害を避けるための輪作に組み入れるにも好適です。

もぎたての新鮮な味は格別で、夏の家庭菜園の立役者、スタミナ源としても魅力です。糖分の多いスイートコーンの品種改良は急速に進み、平成の初めごろに比べるとビタミンB群やCが約1.5倍に増えている物もあり、栄養価の充実した健康食材になっています。

チャレンジ！
野菜づくり

もぎたての味を楽
しむトウモロコシ

します。5月上旬以降が良いでしょう。黒色ポリフィルムでマルチをし、株間30cmを目安に1カ所3粒まきします(図1)。育つにつれて間引き、草丈17〜20cmになった頃に1本立ちにします。

粒がぎっしり付いた良品を得るには、雌穂に雄穂の花粉が十分に付くことが大切です(図2)。そのためには株数がある程度多く、1列植えよりも複数植えにしましょう。少ない株数で花粉不足が懸念される時には、開花した雄穂の下辺りを手のひらで軽くたいて花粉を散らし、下方の雌穂に付きやすくしてやりましょう。

葉の働き(光合成)を良くするために、下の方から出た脇芽は取り除かないで葉数を多くします。また雌穂は上の方の一番大きい1穂だけ残し、他の小さい雌穂は取り除き

ます。

追肥は草丈40〜50cmの頃と、先端の雄穂が出始めた頃の2回、化成肥料を与えます。施肥量の目安は、1株当たり大きじ1杯としますが、前作の残渣が多く、葉の緑が濃く旺盛に育っていたら適宜量を減らしてください。2回目の追肥の後、株元が小高くなるほど土寄せすることで、根が多くなって風で倒れるのを防ぎます。

収穫は絹糸の先が黒褐色に変色した(受粉後22〜26日)ころです。先の方まで十分膨らんでいることを確かめてからもぎ取ります(図3)。

肥料・農薬のご紹介

食害から守る！

トウモロコシ専用殺虫剤

「デナポン粒5」



トウモロコシを収穫してみたら、虫に食べられていた！ということはありませんか？

その原因はアワノメイガの幼虫です。葉の裏でふ化した後、茎の中に入り雄穂の花や、出来た子実を食害していきます。

そこで役立つのが「デナポン粒5」！手で簡単に散布でき、殺虫効果も長く続きます。

茎の先から雄穂が出る時期と葉の脇から雌穂が出る時期の2回、葉の上や葉と茎の間によくかかるように、上からパラパラとまきます。

食害されてからでは遅いので、被害が出る前に防除しましょう。

【注意】

- ミツバチや蚕に対して影響があるので注意してください。
- ラベルに基づき、ご使用ください。

※お気軽に各営農センター(営農購買課)へお問い合わせください。



今月の農家さん

挑戦に応えてくれる農業

野洲市上屋
中島 嘉男さん (82才)



中学生の頃からご両親のお手伝いという形で農業に携わっている中島さん。26才の頃から菊の栽培をはじめて50年以上になるそうです。

現在はパートの方と中島さんの2人が、“かぐや姫”や“そよ風”など70～80品種、約18,000本を1本ずつ手作業で毎日世話をしています。

しかし、それだけ世話をしても、菊は温度や環境の変化に敏感なので、この春は長引く寒さで、開花がお彼岸の売り出しに間に合わなかったと中島さんは悔しさをにじませます。

毎回肥料を変えてみたり、殺虫剤の代わりに

害虫の忌避効果がある『ニーム』とよばれる木の粉をまいてみたり、中島さんが様々な挑戦をすると、菊も色々な形で応えてくれる事が苦労以上の楽しみだそうです。「そんな挑戦をした菊が高く売れたときは、自分の努力が認めてもらえたようで、とてもうれしいです」と中島さんは語ります。

最後に中島さんは「“挑戦や物作りを楽しむ心”、そして“ある程度の収入の見通し”この2つが農業には不可欠です。どちらも大切にしてください」とこれから農業にチャレンジされる方にエールを送ります。

営農情報

■品質向上対策として、 中干しを徹底しましょう

中干しとは水を落として、田んぼを乾かす事です。中干しには稲の根張りを強くして倒伏しにくくし、登熟期の高温に強くさせる効果があります。また、過剰分けつを防止し、適正な籾数を確保することで、乳白米の減少、厚み(整粒歩合)向上につなげて品質の良い米ができます。

水管理作業上の効果としては、間断灌漑や入水が行いやすくなり、落水時期を遅くできるので、胴割れ米を防ぐことができます。また、地面が固くなるためコンバイン作業が円滑になるのに加え、ほ場が乾きやすくなるため、水稲収穫後に麦をまく場合は適期に作業がしやすくなります。

田んぼに水を張っていると土壌中の酸素が少なくなり、温室効果ガスであるメタンが発生しやすくなります。中干しにより酸素を送る事でガス発生を抑制でき、温暖化低減への効果も見込めます。

中干しは目標茎数の8割(1株17～18本、60株/坪)(1株20～21本、50株/坪)が確保できたら開始し、7～10日間ほ場に浅い亀裂が生じる程度まで行います。深い亀裂だと、根を傷つけてしまう恐れがありますので、注意してください。

さい。好天が続くようであれば、適宜指し水をしましょう。

また、中干しを行う際には、ほ場の中と外周に溝切りをしてください。これにより田んぼに水を入れたい時、落としたい時にスムーズに水を移動できます。

水の管理や溝を掘るのは大変ですが、天候が読めない昨今において、高品質なお米へと至る確かな技術なので、ぜひ実践していきましょう。

■いもち病について

いもち病はカビによって起こる、根以外の全ての部分を侵す恐ろしい病気です。梅雨の時期に発生が多くなります。置苗を放置していたり、窒素肥料が多量に葉色が濃いほ場や、草が茂った畦畔沿いや山かげ等、風通しが悪く露が乾きにくい場所は、特に発病しやすくなります。また、例年いもち病が発生しているほ場は特に注意し、発病が見られたら直ちに薬剤(下記参照)による防除を行いましゅう。

薬剤名	使用時期	散布量
コラトップ粒剤5(3kg)	葉いもち初発10日前～初発時 穂いもち出穂30日前～5日前まで	3～4kg/10a
ブラシン粉剤DL(3kg) (地上防除用DL粉剤)	収穫7日前まで	3～4kg/10a